

東近江市長

中村 功一様

私の住む蒲生岡本町では平成16年9月1日より、生ゴミを可燃ゴミとしてゴミステーションへ持ち込むことを禁止しております。そして、この取り組みが東近江市や近隣町に広がればと思い、様々な運動を展開してまいりましたが、日々の習慣を変えて頂くには、手軽さ、生活スタイル等の問題で、全く運動が広がらない状況であります。

スーパーや食品加工業者などの規模の大きな生ゴミ排出事業者に対しては既に規制がかかり、今後、事業系からは一気に減量化が進むものと期待しています。

このような時に、環境県である滋賀県のトップランナーをめざすべき本市として、環境負荷の低減ならびに市民の健康を守る環境こだわり農産物の生産を加速するうえにおいても、この問題に関しては特にリーダーシップを発揮していかなくてはならないと考えます。

市民主導のまちづくりを推進している東近江市としては、逆行する提案と思われませんが、市長の今期の任期中には「東近江市の生ゴミを全量資源化できるシステムを構築する」という宣言をしていただき、一日も早い取り組みをめざして頂きますよう、切にお願いするものです。

今は「めんどくさい」というただそれだけの理由で反対の意見を多くの住民から浴びるかもしれませんが、今、決断していただくことにより、未来のすべての市民から賛同を得られると私は確信しております。

何卒、何卒、よろしく願いいたします。

平成19年3月6日

東近江市リサイクルシステム懇話会
委員 岡田 文伸